

第2期

2020～2024

甘楽町まち・ひと・しごと創生 総合戦略を策定しました

「キラッとかなんら安心のまち」

企画課企画調整係 内線240・241

町では、第1期甘楽町総合戦略の計画期間が終了することから、まち・ひと・しごと創生法に基づき、昨年12月に国が策定した総合戦略や第1期計画の基本的な方向性を引き継ぎ、時代に適合した新たな視点を盛り込んだ「第2期甘楽町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

さらに、町民の暮らしを守り、持続可能なまちづくりを進めていくため、総合戦略の基本方針ごとにSDGs(※)の目標を踏まえ戦略事業を展開します。

※「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略で、2015年9月の国連サミットで採択された2030年までに達成すべき17の国際目標

総合戦略の構成

町が目指すべき人口展望を示す「人口ビジョン」とそれを実現するための具体的な施策を定めた「総合戦略」で構成され、少子化・高齢化や人口減少が進行する中、住民が誇りを持って暮らし続けられるまちづくりの実現に向けて、さまざまな施策を推進します。

総合戦略の計画期間

令和2(2020)年度から令和6(2024)年度までの5年とします。

人口ビジョン

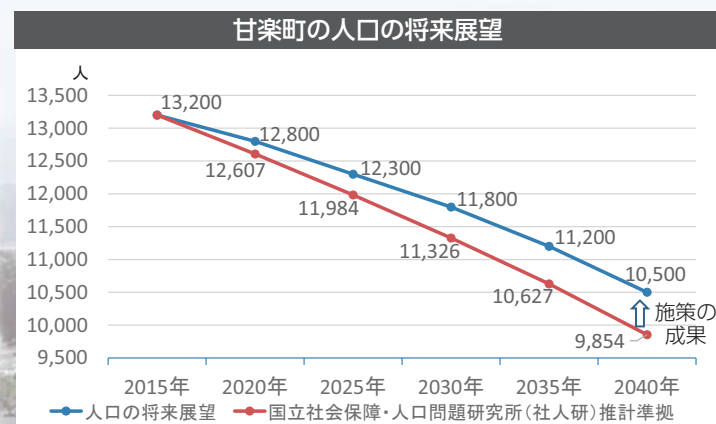
人口の現状を分析し、今後目指していく町の将来の方向と人口の将来展望を掲示するものです。

町の人口の現状

町の人口は、昭和34年当時15,426人でしたが、少子高齢化や転出増により、2015年には13,200人(国勢調査人口)となり、このまま推移すると2040年には9,854人まで減少すると推計されています。

町が目指す将来人口

令和22(2040)年
10,500人



少子高齢化や20代の転出超過が目立つ一方で、近年は未就学児や子育て世代、外国人を中心に転入増の傾向にあり、定住者が増加していることがうかがえます。これらを踏まえ、町では第1期計画の検証結果や近年の人口動態の状況

などを基に、将来人口の推計内容を見直しました。第2期総合戦略では、出生率の維持・向上に取り組むとともに、若者や働く世代の移住・定住化の促進に努め、令和22(2040)年に人口10,500人を目指します。

総合戦略

町の人口ビジョンを踏まえ、若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現と、東京圏への一極集中の歯止めや地域の特性に即した課題を解決するため、町の実情に応じた政策分野ごとに4つの基本目標を設定し施策の基本的方向性を定めました。



総合戦略策定にあたっては、キラッとかなんら安心のまち創生会議(委員11人)、キラッとかなんら未来創生懇話会(委員18人)において意見をいただきました。(上写真は8月17日開催の第2回創生会議)

基本目標1 元気とにぎわいを生む地域戦略

農林業・商工業・観光の連携強化を図り、地域の特性に応じた稼ぐ地域の実現と安心して働ける環境の実現を目指します。

主要事業

- 企業誘致推進事業
- 若年雇用支援事業
- 空き店舗等活用支援事業
- 観光キャンペーン事業



基本目標2 住みたい、住み続けたい地域戦略

宅地開発や空き家を有効活用し、UIターン促進と定住者の増加、地方へのつながりを構築し、関係人口の創出・拡大に取り組みます。

主要事業

- 空き家対策事業
- まちづくり定住応援金交付事業
- 新婚生活スタートアップ応援事業
- 住宅団地整備事業



基本目標3 子育て支援の地域戦略

結婚・出産・子育てしやすい環境を整備し、子育てと仕事の両立の難しさを軽減することにより若い世代が希望を持てるまちの実現を図ります。

主要事業

- 不妊・不育症治療費助成事業
- 認定こども園整備事業
- かなんら子育て支援センター運営事業
- 放課後児童健全育成事業(学童)



基本目標4 安全安心と個性あふれる地域戦略

町民が安心して夢や希望を持って暮らすことができるまちづくりを目指し、自然災害等に対応した防災体制や新型コロナウイルス感染症対策に取り組み、安全安心な生活の確保に努めます。

主要事業

- 防災力向上推進事業
- シルバー人材活躍の場創造事業
- 公共交通施策の拡充事業
- 介護予防普及啓発事業



今後の本戦略の推進

本戦略の推進にあたっては、キラッとかなんら安心のまち創生会議において毎年その効果検証を行い、意見を踏まえながら見直しを行います。

本戦略は役場ロビーで閲覧できます。

また、町ホームページでもご覧いただけます。



←町ホームページはこちら